

令和5年度第1回 茂原市総合教育会議

1 期 日 令和5年9月27日(水)
開 会 午後1時15分
閉 会 午後2時14分

2 場 所 茂原市役所9階会議室

3 出席者

茂原市長	田中 豊彦
教 育 長	内田 達也
教育長職務代理者	竹田 幸則
委 員	安藤 明子
委 員	高貫 裕一郎
委 員	高仲 輝夫

4 出席職員

教育部長	中村 一之
教育部次長(教育総務課長)	白井 康史
学校教育課長	矢部 博
学校教育課主幹	齊藤 隆
体育課長	宮内 智之
生涯学習課長	岡田 公一
生涯学習課長補佐	萩原 毅
美術館・郷土資料館長	中澤 浩子
東部台文化会館長	鶴岡 嘉孝
中央公民館長	三階 英幸
教育総務課長補佐	小安 宏尚
教育総務課総務係長	稲子 泰幸

5 傍 聴 人 0人

6 議 題

1 茂原市立図書館の移転検討について

【資料】

- (1) 今後の図書館の役割について
- (2) 図書館の目指す方向性について

7 そ の 他

8 会 議 録

教育総務課長 補佐 : 定刻となりましたので、ただいまから令和5年度第1回茂原市総合教育会議を開会いたします。

構成員の皆様には、ご多用の中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

今年度1回目の総合教育会議となります。本日の案件は、次第にあるとおり議題1件でございます。

重要な議題となりますので、よろしく願いいたします。

それでは、開会にあたりまして、田中市長より御挨拶をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

市長 : 本日、令和5年度第1回の茂原市総合教育会議を開催するにあたり一言ご挨拶を申し上げます。

教育委員の皆様には、日頃から本市の教育の充実に向けてご尽力賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本日は「茂原市立図書館の移転検討について」を議題として取り上げたところでございます。

茂原市立図書館につきましては、平成8年及び平成25年に水害の被害を受け、平成26年から現在の場所に移転いたしました。

多くの来館者がいる中で、賃料や、駐車場の問題などがありますので、現状と課題や、今後の見通しなど、皆様との共通認識を図りながら、最善の方法をとることができればと考え、本日の議題といたしました。

教育の推進にあたっては、社会情勢の変化に迅速に対応するため、スピード感を持つとともに、十分な協議を行いながら、連携を図り、進めてまいりたいと考えております。

今後とも御理解、御協力をお願い申し上げ、簡単ではございますが、あいさつに代えさせていただきます。よろしく、お願いいたします。

教育総務課長
補佐 : ありがとうございます。

それでは、これより本日の議事に入らせていただきます。

本会議の議事の進行につきましては、教育部長が行うこととなっておりますので、これからは中村教育部長、よろしく願いいたします。

教育部長 : それでは、よろしく願いいたします。

早速議題に入りたいと思います。本日の議題は1件でございます。

それでは、議題1「茂原市立図書館の移転検討について」説明をお願いいたします。

生涯学習課長 : それでは、茂原市立図書館の移転検討について御説明いたします。

本資料は、先月30日市議会に報告したものでございます。

まず、市立図書館の現状でございます。

市立図書館は、平成8年、25年の水害を受け、老朽化も進んでいたことから平成26年にサンヴェル6階に移転しました。

賃料は、貸主、南総通運より、毎年、引き上げを要求されており、双方の折り合いがつかず、令和4年度から供託している状況であり、令和6年度以降は更なる賃料の値上げも提案されておりました。

また、市立図書館で借りております「南口駐車場」は、駐車台数に限りがあることや、無料で使用できる時間に制限があるなど毎年アンケート等において要望が出されておりました。

このような状況の中、令和4年4月に商業施設「アスモ」を運営する茂原商業開発㈱から図書館誘致の提案書が提出され、その内容が、賃料や施設の利便性など現市立図書館が抱える問題の解消につながると考え、本事業検討を行っております。

次に、提案内容です。資料4ページをご覧ください。

こちらが、協議を重ねた上で、令和5年6月にアスモから提示されました案でございます。

まず、(1) 想定総経費ですが、310,060千円。面積は、2,006㎡ 坪にして608坪であり、現図書館と同程度の面積となります。

この想定総経費を、a. アスモ支出分とb. 市支出分に分けております。

a. は、アスモが図書館施設を整備するための経費で、内訳は基本設計、実施設計、工事費、書棚等の備品購入費で200,560千円を予定しています。当初の提案では市が実施することとなっておりましたが、賃貸物件の整備を市が実施することが難しいため、移転については、一旦白紙となりました。その後、アスモが実施するとの提案があり継続して本事業について、検討しております。

b. については、市支出分で、サンヴェル6階の原状回復費、書籍の移送などの移転委託費等、引っ越しのための費用で、109,500千円を予定しており、令和6年度当初予算として要求する予定です。

次に、(2)賃料等をご覧ください。

アスモは、表、左端NO.1「アスモ賃料」aにあるように賃料を年額32,618千円で提示しております。NO.1「アスモ賃料」aと、下にあるNO.2「サンヴェル賃料」b年額41,081千円を比較した場合、NO.3「差額」は、8,463千円安価となります。また、右端にありますNO.3差額の15年合計につきましては126,945千円であり、(1)b.の市支出分についても実質的に負担額を回収することができます。16年目以降の賃料は、年額25,680千円となります。サンヴェル賃料41,081千円と比較すると15,401千円安価となり、長期継続契約は、20年を予定しておりますので、5年間で約77,000千円の負担減となります。

新しい施設に移転することにより、現在の施設より賃料が安価となり、より安定した図書館運営が可能になると考えております。

次に5ページをご覧ください。移転を検討しておりますアスモ2階東側の平面図でございます。新型コロナウイルス感染症のワクチン接種会場となっていた場所を中心に、現在、営業している100円ショップや、写真館をアスモ内に移転させて、図書館の移転に備えることとなります。

次に2ページをご覧ください。アスモからの提案を受けて、市で検討した結果になります。

はじめに、3(1)利便性の向上です。

現施設に移転した当初から、駐車場の無料時間が短いなど車での利用者の利便性について多くの意見があり、毎年行うアンケートの中でも同様の意見がありました。アスモには、無料で利用できる駐車場が650台あり、経路に大きな障壁も無いことから、車での利用がしやすくなると思います。また、新たな施設を整備することでまちの活性化につながると考えます。

次に3(2)施設の充実です。

館内施設については、前回の移転が急だったため、読書スペースや読み聞かせの部屋など十分な図書環境が備わっていない状況に課題がありました。移転することで施設がリニューアルされ、充実した施設となります。また、アスモにあるセンターコートや劇場部分を利用して、アスモのイベントと連携した利用者も見込むことができます。

次に3(3)については、4ページで説明した内容となりまして、床借り上げ料等の軽減内容になります。

次に、3ページをご覧ください。

4施設の比較です。場所、使用床面積、駐車台数、床借り上げ料の比較を行っておりますので、ご参照ください

次に今後のスケジュールです。市とアスモとの役割等を取り決めた覚書を10月に取り交わし、基本設計、実施設計と進めてまいります。

現施設からの引っ越し費用は、令和6年度予算に計上を予定し、条例の一部改正は翌年の9月、移転オープンは令和7年春頃を予定しております。

今回の移転につきましては、市民の皆様の利便性の向上に寄与するとともに、長期的に見れば、市の財政効果、財政負担の軽減にもつながると考えております。

以上でございます。ご意見のほどよろしく申し上げます。

教育部長 :

ありがとうございました。

ただいま、「茂原市立図書館の移転検討について」の説明をいたしました。が、御質問等がございますか。

よろしいですか。

この後、今後の図書館の役割、図書館の目指す方向性について、意見交換を予定しておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、次第(1)今後の図書館の役割について、説明をお願いいたします。

生涯学習課長 :

今後の図書館の役割について、でございます。

これまでの図書館の役割は、図書、雑誌、視聴覚資料や、情報の提供が主なものでした。これについては、今後とも、市民が気軽に必要としている情報を入手できるようにする役割を担う点で、今後もさらに拡充していくことが重要であると考えております。

その一方で、子育て支援としてのブックスタート事業や、幼児期から児童、青少年期に読書習慣の形成や心の成長に資する図書の提供といった教育的な支援の拡充、さらに社会的弱者に対する図書館機能を使つての支援などが重要と考えます。

また、人生80年時代を心の面で豊かに過ごす学びの場としての生涯学習を、個人の学習の枠に留めるだけではなく、そこで培った経験や知識を地域や社会に還元する活動への支援と考え、そのための環境整備の実施や、情報通信技術を活用したソフト事業の展開など、図書館には新たな役割が求められております。

以上になります。

教育部長 :

ありがとうございました。

ただいま「今後の図書館の役割について」の説明をいたしました。社会の変化に伴って、図書館の求められる役割が時代とともに変化してきていると考えております。

移転に伴いまして、そういった役割・要望等に応えられる図書館にしたいと考えておりますので、委員の皆様一人ひとりから御意見をいただければと考えております。

それではまず、竹田委員、いかがでしょうか。

委員 :

現在の図書館は駅前であり、非常に便利そうに見えますが、買い物のついでに利用することは、なかなかできないのではないかと思います。また、アスモへ移転した場合、車の通りも非常に多いところですので、交通事情もいろいろと考えていかなければいけないと思っています。

図書館というのは子どもたちも含めて、皆さんが勉強をしたり、いろいろとする場で、重要な場でもありますので、さらに利便性のある使いやすいものにしていただければいいのかなと思います。また、人もお店もたくさん入っているので、そういったものとあわせてイベント等面白いものができていくのかなと思いますので、私としては非常に今後の図書館について期待しているところでございます。

教育部長 :

ありがとうございました。

続きまして、安藤委員、いかがでしょうか。

委員 :

先程、移転の計画等もお聞きした上でのお話になりますが、皆さん車で移

動というのがやはり1番多いと思うので、市内で駐車場もあって、路線バスもあり、お子さんから高齢者まで皆さんが利用するには、とても良い立地だと思いますし、お買い物のついでにお子さん達も一緒にご家族で来て、本に触れる機会があるというのも、とても良いことだと思います。これから計画等になると思いますが、高齢者の方や障害のある方もいらっしゃると思いますし、小さなお子様をお連れの方はベビーカーなどもありますから、バリアフリーでベビーカーや車椅子などの利用もしやすいような幅の広い通路等も考えていただければ、みんなが利用するのに良いかなと思います。

教育部長 :

ありがとうございました。

続きまして、高貫委員、いかがでしょうか。

委員 :

今回、図書館のことについて自分なりにいろいろと調べさせていただいて、その中で、今回の案件に当たるかなと思っている自分なりの考えをお話しさせていただきたいと思います。

先日、文部科学省が行っている、「これからの図書館の在り方検討協議会」の資料を見せていただいた中で、図書館法という法律があり、図書館の目的として、教養・調査研究・レクリエーションの3つが挙げられ、全て図書館で住民の調査研究を支援することが求められていると書かれていました。

この中で、教養・調査研究というのは分かるのですが、レクリエーションという部分がなかなか従来の図書館からはあまり想像できなかったところであり、アスモに移転した場合、様々なイベントや今まで図書館で行わなかったような企画をやることによって、この辺りの要素も盛り込めるのではないかと思います。

それから、図書館政策のあり方の中で、まちづくりや地域振興、活性化を図るには図書館が核として役割を果たすことが重要であると書かれており、これからのまちづくりの中で、図書館を利用して、例えば子どもの教育や生涯教育、住民の方々のいろいろな部分での文化や教養といったものを高めることで、市全体の意識や考え方が上げられて、幸福感を増すことができるのではないかと期待しております。

アスモに移転することによって、今まで調査研究や教養のために図書館に行っていた方が、買い物のついでに図書館に立ち寄れると図書館に入ってくれる窓口、間口を広げることはできるのではないかと思いますので、これから図書館を作っていく上で、その辺りをより呼び込めるような図書館にしていただければ良いのではないかなと思います。

教育部長 :

ありがとうございました。

続きまして、高仲委員、お願いいたします。

委員 :

これまで持っている図書館のイメージと発想を少し転換しなくてはいけないのではないかと思います。これまでの図書館は、本がたくさんあって、静かにしなさい、飲食駄目ですよというイメージでした。

今回出されている原案は、住民サービスということで、もっといろいろな取り組みをしようという意図であり、良いと思います。

子どもの読み聞かせコーナーがあり、資料を探しに来ている人や受験勉強をやっている人、安く情報を得たいという人、今話題になっている本を覗いてみようという人もいる等、いろいろな図書館の目指す方向性、役割について楽しみにしており、多方面からいろいろな役割を持った図書館をという発想を、転換して、やっていただくことを今後期待しております。

ただ、にぎやかな図書館、あるいは、にぎやかな施設の中にある図書館と

いうことで、にぎやかさが良いものであればいいのですが、中には、ちょっと静かなところも求めたいと言う人もいるので、懸念されるところです。

また、アスモに買い物に行ってみますと、中央のフロアで飲食をしている年配の方々が随分いらっしゃって、その人たちにも、図書館という1つの居場所ができるのは、楽しみではないかと思えますし、親御さんにとっては、買い物ついでにお子さんをちょっと預かってもらえるという、いろんな利便性があります。

いろいろな役割を果たすという目的のもとにこの事業を進めていただければと思います。

教育部長 : ありがとうございます。

それでは、教育長からご意見をお願いします。

教育長 : 今後の図書館の役割について、先ほど、委員の話にありましたが、文部科学省のこれからの図書館の在り方検討協議会の中で、図書館の役割は、教養と調査研究というのがまず出てきて、図書館は、本で何か調べたい、あるいは、本に興味があって図書館に行くという、図書館を目的に行く人のためというのがあったと思うのですけれども、子どもの読書では、学校の役割として、本を読むことは知識が広がるし、世界も広がり、人生が豊かになっていくので、すごく良いものであり、本と子どもたちのかけ橋になるということがよく言われます。

今後アスモに移転した場合の一番の違いは、ショッピングモールの中にあるということですから、本を読みたい、何か調査したいといった図書館に行くという目的ではない人と本とのかけ橋になれるという、子どもの読書でよく言われるような、本と人々が出会う場所にできるのではないかと思っています。

今、読書をする人は減ってきていると言われてますし、本の魅力を子どもだけではなく、そういうことを知らなかった大人たちにも知らせるためにも、本と人々の出会いの場所としての役割が図書館には必要ではないかと思っており、今後アスモに移転した場合の特徴として、ショッピングモールの中にあるということがすごく生かされるのではないかと感じています。

また、先日、富津のイオンモールの中にある図書館へ行き、休館日だったので、実際にお客様が入っている様子は見られなかったのですが、館内を見せてくれましたし、印象として、非常に綺麗で、何度も行ってみたいなという気持ちになるような綺麗な場所だと思いましたので、新たにつくり直す時に、そういった、人々が訪れたいと思うような形にできれば、本当に本と人々が出会う場所になることができるのかなという印象を持ちました。

教育部長 : ありがとうございます。

続きまして、市長から御意見をお願いします。

市長 : 今回の図書館の移転については、まず、南総通運にお願いをしてサンヴェルをしばらく使わせていただいていた経緯があるのですが、その原因はやはり先ほど話に出ましたが、平成8年と平成25年の水害で一宮川が越水をしたため水に浸かってしまい、平成25年の時には、1万数千冊が駄目になってしまったということがありました。

そのため、あの場所だとまずいということで、南総通運にお願いして、場所をサンヴェル6階に変わったということです。

図書館流通センターで、指定管理でやってもらっていますが、問題は南総通運から、単年度の賃貸家賃の増額変更を行政側に求められ、再三協議を

したのですが、結局供託となり、なかなか折り合いがつかない中で、今回の移転に繋がってきております。

図書館の方向性を目指す役割ということですが、今、教育長からありましたが、今の図書館の状況が大分変わってきていまして、皆さん方もご存知のとおり、一つはマーケットと一緒にあった複合的な施設に全国的にも変わってきていると思っています。

また、利便性と社会構造になっている車での移動における駐車場の確保といった意味でもかなり違ってくると思っておりますので、非常に良いのではないかと思っております。

ただ、今、話が出てきましたが、静かな中で、あるいは読書をするための環境の整備等も一方で整えながらやっていかなければいけないので、ここがうまくいくかどうかというのは今後の宿題になってくると思っておりますが、それに応えるように施設を整備していかなければいけないと行政側は思っております。

子どもたちにとっては、先ほど話に出たとおり、それを兼ね備えて、しかも買い物もできて、その中で、また発想の転換もちょっと変わってくるのかなとも思いますので、図書館の移転については、私としてはよろしくお願ひしたいと思っております。

今日皆さん方の意見を聞いて、マイナスの意見はあまり見えなかったもので、こういう形で進めさせていただければ、非常に行政側としても助かるかなと思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思っております。

それから、気になる点としては、先日、南総通運の社長が来て、あそこはもう何回も水に浸かっていますが大丈夫ですかというようなことを言って帰られましたが、これは車の問題であって、図書館の問題ではないと思っておりますので、このまま割り切って対応していかなければいけないかなと思っております。

また、移動手段が駅前からちょっと変わるので不便ではないかと言うのですが、それを言ったら前の図書館はずっと不便なところに建っていたということになってしまうので、この辺は理解してもらえるのかなということでございます。

私からはそういうことでひとつよろしくお願ひ申し上げます。

教育部長 : ありがとうございます。

いろいろなご意見をいただきました。

今後、図書館の整備を進めるにあたり、市民のニーズの把握が大事になると思っておりますので、アンケート等で市民のニーズを把握しながら、基本計画を作り、基本設計、実施設計と進んでいきたいと思っております。その都度、また皆様方にお示ししながら、できるだけ時代に合った図書館にしていきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

それでは次に、次第(2)図書館の目指す方向性について、説明をお願いいたします。

生涯学習課長 : 図書館の目指す方向性について、でございます。

市民の利便性の向上、図書館機能の充実を基本に、子どもからお年寄りが利用しやすいよう本棚のレイアウトや、読書スペース等に配慮した施設とし、特に、子育て支援等にも配慮したサービスを提供したいと考えております。

具体的には、基本設計の中で専門家を交えて検討を進めてまいりますので、改めて御報告申し上げます。

教育部長 : ありがとうございます。

ただいま「図書館の目指す方向性について」の説明がございました。こちらについても、委員の皆様一人ひとりからご意見をいただきたいと思いますが、難しく考えず、どんな図書館にしたいかとか自分だったらこういう図書館に行きたい等も含めて、ご意見をいただきたいと思いますので、恐れ入りますが、また竹田委員からお願いいたします。

委員 : 先ほど教育長からお話がありましたとおり、富津市の図書館を見せていただいた時に、本棚の高さが低く、全体が非常に見やすいという感想を得まして、今回、ショッピングモールの中に移転ということになると、例えば、子どもさんだけいて、お母さんは買い物に行ったりとか、いろいろな支援が考えられると思います。そういった時の防犯面とかも含めて、今後さらに注意していただければと思います。

教育部長 : ありがとうございます。

続きまして、安藤委員、お願いいたします。

委員 : これから新しい図書館ができる上では、やはりスペースをいろいろ考えると思うのですが、お子さんが絵本を読んだりできる自由な場所には、富津市の図書館でもレイアウトがされていまして、椅子やテーブルがあったり、お子さんが歩いても大丈夫なように靴を脱いで上がるスペースを作ってもらっていましたし、ベビーカーを置いておくスペースも一応ルールみたいになっているようでしたし、また、子どもたちの手が届くように書架の高さも低めでしたし、絵本を読む世代以外の大人でもちょっと読んでみたくなるような、絵本の表紙が見えるように飾ってあったり等、とても工夫されていたと思います。

やはり商業施設、ショッピングセンターと一緒になるということは、いろいろなサービスもやっているようでしたし、例えば図書館を利用した人は、飲食の割引がありますよとか、季節のイベント等もいろいろとやってらっしゃるようでしたのでそういう楽しみ方も、ご家族で訪れた時に利用できるのではないかなと思うので、とても楽しみにしています。

教育部長 : ありがとうございます。

続きまして、高貫委員、お願いいたします。

委員 : 私からは今後のあり方を見直す方向性ということで、商業施設に移転するという前提にお話させていただきたいと思いますが、やはり今まで、先ほどからお話にあります、図書館を利用しようと思う人が行く図書館ではなく、誰にも開かれた図書館、誰もが利用しやすい、気軽に入ることができる敷居が低い、入りやすい図書館というのを目指すのがまず一つあるかなと思います。

その中で、これも前に文部科学省の資料で調べさせていただいたときに、地域のボランティアの人たちを巻き込んで図書館づくりをしていくというのも一つの手法としてあるというお話を目にしました。

例えば、読み聞かせに関して、今、アスモの中で、NPO法人ナルクが子ども遊び広場のような活動をやられているので、そういう方たちとタイアップをして参加していただいたり、ボランティアや市民の方たちを巻き込んで行うことで、市民全体で図書館をうまく作っていくということも一つ考えても良いのかなと思います。

そういう地域ボランティアや各種ボランティアの方たちの活動の場としても、活動の対象が子どもであったり、大人であったり、いろいろだと思いますけれども、図書館を介して、そういったものができる面白いかなと思います。

また、私も先日、富津市の図書館を見せていただいた中で、イオンと非常

にタイアップをしているなという印象をすごく受けました。図書館は図書館で独自でやっているというだけではなく、イオンと一緒にあって、利用者呼び込むためのサービス、例えばガチャガチャをやって、その中にいろいろな当たり券があって、マクドナルドのドリンクサービス等テナントとタイアップして事業をされていると聞きました。

これもいろいろな仕掛けのやり方があると思いますので、図書館以外の方たちと連携して、新しい利用者を増やす取り組みをぜひやっていただきたいなと思います。本当にこれは可能性がかなり広がると思います。

それから、先日富津市の話を聞いていまして、富津市の人口が4万5、6千人と伺ったのですが、開館して半年で利用者が10万人を超えたというのはすごいことだなと思いました。

茂原は年間9万ぐらいだとすると、もっと上を目指すべきじゃないかなと思います。というのもやはり商業施設とか民間の感覚で言うと、利用者にとって利用しやすい環境を作るというのが一番だと思います。例えば、書架が低いとか入っていて心地よいスペースを作る等、本がある場所を作ればいいというわけではなくて、利用者にとって利用しやすい、居心地のいい空間を作るということをいろいろな方たちと相談しながら検討していただければと思います。

また、これもやはり富津市で伺った話ですが、近隣の他市との連携もされており、例えば、君津市では、もともと図書館があり、しっかりした蔵書がされているが、富津市は割とフランクな蔵書であると話があって、お互い情報を共有しながら、富津市にないものは君津市を紹介したり、君津市から取り寄せたり、逆に富津市から貸し出したりということで、広域連携的なことをされているという話も聞きました。

茂原市でいうと、長生郡市に関しては、茂原市以外は図書館がないですから、そういった方たちとの連携やそういう人たちを呼び込むことによって、いろいろな効果が得られるのかなと思います。

その辺りは行政間の壁というものもあるかもしれないですが、この地域全体をいろいろな意味で良くしていくということでは、そういったことも取り組んでも良いのかなと思います。

教育部長 : ありがとうございます。

続きまして、高仲委員、お願いいたします。

委員 : 私は、茂原市内には、本屋が3か所くらいと少なく困っています。

一番困ることは、場所がなく、本に触れる機会がないことですので、アスモに図書館ができてくれると、のぞいてみようという気になります。そして、図書館で調べて良い本があったら、自分で買って読もうかなと思っています。

それから、子育て支援という言葉が出てきましたが、問題になったのは学童の問題、小学校に入学して、学校が早く終わって、その間両親が働いていて学童保育があるけれども学童に入ることが大変だということを耳にしたことがあります。

幼稚園、保育所は延長保育で何とかありますけれども、小学校低学年の時に預かってくれる施設がないのかな、図書館に入れておくのも一つの手かなという、そんな強い考えもあります。

いろいろ考えると、使い勝手がいろいろな目的を果たせる場所かなという気がしており、いろいろな面で期待しています。

教育部長 : 他にありますか。

続きまして、教育長、お願いいたします。

教育長 : 今、各委員からお話がありましたが、私も、やはりアスモだった場合に

は、周りの施設や周囲の人との連携については、先ほど話に出たナルクは、子育て支援として、アスモの中の部屋を使って、小さい子どもたちを預かって、その間お母さんたちが時間を潰すということを週に1回ぐらいやっているのですよね。先日行った富津市のイオンも図書館の中ではない隣の会議室を使って読み聞かせをしたり、図書館の中ではない外の机や椅子のあるスペースで過ごしたりしていたので、アスモの配置図を見て、隣に劇場や空いている部屋があれば、そういうところとナルクのようなボランティアの人の活動を結びつけることもできるのかなと思いました。

それから、今、小中学校では、地域を知るということで茂原学というのをやっていて、富津市のイオンにも地域のスペースがあって、資料を飾ってありましたが、やはりそういう茂原学ができるような、例えば、市制70周年に、茂原に縁のある人の勧める1冊というものがあって、市長やいろいろな人がやっていて、そういうスペースがあってもいいのかなと感じました。

また、これはアスモにあるからということではないのですが、情報発信や、今の図書館もやっていますが、電子図書についてもこれからは充実していかなければいけないと思っています。

それから、富津市では電子タグが整っていて、すごく貸し借りしやすいようになっていたので、そういった近代化というところを進めていかなければいけないと思っています。

教育部長 : ありがとうございます。

最後に、市長から総括的にご意見をいただきます。

市長 : 内容については、皆さんで検討してもらって、良い意見が結構出ているのでそれを採用していければいいかなと思っていますけれども、市民が喜ぶ施設になってくれればいいというのが前提で、そんな中で、ボランティアで市民に読み聞かせをすとか、あるいは、広域連携も含めた中で利用者を増やしていくとか、本に詳しいスペシャリストみたいな人がいると非常に図書館としての力がアップしてくるかなと思っています。

それから、学童については、増設という話が毎回出ているのですが、限界があるので、アスモの一面を学童のような形にできるのであれば、移動をどうするかというのがありますが、学童は本当に足りないもので、そこを上手く利用できればと思っています、検討価値があると思っています。

いずれにしても、アスモに移るということは、下にあるスーパーマーケット、あるいはケーヨーD2と一体となって利用していただければ、効果が倍になって反映されてくるわけですので、すでに入っている業者の人たちともよく打ち合わせをして、図書館運営上の何か新たな試みというのは、当然あってしかるべきだと思います。

棚が低い等、富津市で見た良いところは、どんどん取り入れていただいで、また、いろいろなことをやっていたので、そういったことをまねてもいいと思いますので、富津市は4万人しか人口がないのに、半年で10万人来るといのはすごいことなので、引き寄せる何かがあるのかなと思っていますので、上手く利用していただければと、私からはお願いいたします。

教育部長 : ありがとうございます。

いろいろなご意見をいただきましたけれども、最後に何か皆様方から御意見等ありましたら、お願いいたします。

よろしいですか。

教育部長 : 今回の移転によって、いろいろな可能性が出てくると思いますし、アスモとの連携や図書館の役割だけに限らず、今、お話のあった学童等、いろいろ

なものも期待される場所だと思いますので、そういった場所も踏まえながら基本計画、設計等を進め、その都度、皆様方から御意見をいただきながら、良いものを作っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

図書館の移転に伴って、市民の皆様が利用しやすくなり、多くの方々に活用していただけるよう、また、長期的に見て、財政的な効果も期待できると考えておりますので、そういった面も含めて、良い図書館にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以上で本日の議事については終了いたします。

教育総務課長
補佐

皆様、長時間にわたりお疲れ様でした。

次回、令和5年度第2回の総合教育会議の日程でございますが、来年の3月下旬を予定しております。

議題と合わせまして、決定次第お知らせいたします。

また、本日の会議録になりますが、決裁後、市のウェブページで公表いたしますのでご了承のほどよろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、令和5年度第1回総合教育会議を終了いたします。